

# 「教育現代化」の先頭に立つて

## — 科学・技術の成果を生かした放送教材の利用 —

足利市立西小学校 長 竹 公 二

明治百年を迎え、わが国の教育は、科学・技術の進歩発展とともに急速に機械化され、近代化されつつあります。このことは、社会の進歩にともなう教育内容の激増とコミュニケーション・メディアの開発・普及とを合わせ考える時、誠に当然なことであるといえましょう。

これからの新しい社会に生きていく児童のために、教育は改善され、現代化されなければなりません。こういう認識に基づいて、「教育の現代化とはいかなることなのか」考えをめぐらすことは21世紀に活躍する児童生徒を育む教師にとって大切なことだと思えます。

教育の現代化といわれるものには、内容に関する現代化と、方法に関する現代化の二つの面が考えられると思います。前者については、現在、国家的立場から現代教育課程に検討が加えられ改訂作業が進められておりますので、そちらにまかせるとして、ここでは現場教師の立場から、教育方法に関する現代化について考え、私見を述べることにしました。

教育方法の現代化といえども、今日、数多くの問題をかかえております。教育方法の現代傾向としては、プログラム学習・ティーチングマシン・チームティーチング・放送教育等、数えあげればきりがありません。それらのどれが教室内に進入しても、画期的な教育方法であり、従来の教材ではなし得ない教育効果を発揮するものと期待されております。これから私が述べる教育現代化論においては、種々ある新しい教育メディアの中においても、一般的、かつ安易に利用できる「学校放送」を取りあげることにしました。その中で、放送がいかんにして教育界に進入し、いかなる教育効果をあげうるかを考えてみたいと思えます。

### (一) 教育の基盤はコミュニケーションである

教室における毎日の授業は、教科も、道徳も、特活としての学級会活動も、みなコミュニケーションを基盤として成り立っている。

私たち教師は、児童に自分の考えや知識あるいは技術などを教え、伝えている。それに対して児童は、それがわかったとか、わからないとか、自分はそう思わないとか反応する。教室における日々の学習活動は、このようにして進行していく。これがコミュニケーションの基本型なのです。こうしたコミュニケーションの継続によって、学校における教育活動は成立するのです。しかし、教師といえども、複雑化した現代社会では、児童に教えるすべての内容をより正確に、より能率的に伝達するためには、各種の媒体物(media=教材)を必要とするのです。すなわち、教え、伝えるための教材を使っていかなければ学習活動が不可能なのです。したがって今日では教えるための内容を盛りこんだ教科書教材を用いて、学習コミュニケーションを行なっているのです。

教え、伝えるための内容が巧みにデザインされ、児童に興味ある教材が、学習コミュニケーションのメディアとして教室内に取り入れられれば、教師と児童との間にコミュニケーションが効率よく進

行し、能率的、効果的な学習指導が展開されることになる。まさに教育は、コミュニケーションの過程としてとらえることができ、そこにおける媒体物(media=教材)が学習効率を左右するといえよう。したがって教師は、学習効率を高めるために、常に、より効果的なコミュニケーション・メディアを求めてやまないであります。

今日のような、科学・技術の進歩発展した現代では、効率の高いコミュニケーション・メディアも開発され、普及しております。ラジオ・テレビは、その1つでありましょう。

それでは、コミュニケーション・メディアの発達史を考えながら、教育の現代的方向をさぐってみたいと思います。

## (一) コミュニケーション・メディアの発達と教育の現代化

明治以来における社会の発展・拡大は、コミュニケーションの拡大をうながしました。口で伝え、耳で聞くかわりに文字や絵に表現し、意志を伝え合った時代から、印刷術の発明によって出現した教科書、写真術の発明によって出現した映画やスライド等のように、コミュニケーション・メディアの発達は、それ以前に比較して、コミュニケーションの高効率を生み出したといえます。教育界も、これらのメディアを用いて、利用上の研究を積み重ね、学習効率を少しでも高めようと努力したのであります。しかし、1925年(大正14年)には、ラジオ放送が開始され、この新しいメディアを教育界に利用しようとの試みから、1925年(昭和10年)には、全国向けラジオ学校放送が開始されたのであります。さらに、1953年には、テレビ学校放送が開始され、科学・技術の成果は、たちまちにして教育界に及んだのであります。

こうして、新しいコミュニケーション・メディアを教育に活用するということは、教育の基盤がコミュニケーションであることを考えると当然でもあります。また、このことは、科学・技術の成果を教育に思いきって取り入れるということで、学習指導の現代化になり、学習効率を高める点で大いに期待されるのです。

効率の高い電気メディアをうまく使って、児童の認識を意図的・計画的に高めようとする研究方向こそ、今日の学習指導法に課せられた現代的方向であり、現代教師の使命であると思います。

## (二) 放送の教材としての特性と利用法

科学・技術の発展にともなう新しい教育メディアを教室内の学習活動に教材として取り入れるためには、新しいメディアの教材としての特性について細かく検討し、利用法を研究しなければならないと思います。利用法の研究をおろそかにして、「ただ見せればよい、聞かせればよい」に終わってしまったのは、近代的教材ともいえども「学習の場の孤児」になってしまい、効果は期待できません。それでは教材が現代的というだけで、学習指導の現代化とはいえないと思います。そこで放送のもつ教材としての特性について若干述べてみたいと思います。

ラジオ放送は、声音による電気メディアであり、テレビ教材は、音と映像による電気メディアであります。したがって、教科書のような印刷メディアとは、その特質をまったく異にしていると思います。以下、放送の具体的特性について述べておきます。

1. 放送は、話しことばと動く映像が中心なので、児童の学習意欲や関心を高め、知識や経験に応じて利用できるのも、幅広い対象をもつことができるといわれています。このことは、学習の個別化を可能にするともいわれます。
2. 放送は、豊かな情緒性をもち、望ましい心情や態度を育てるといわれます。音声には、人の感情がこめられており、映像には、感情的な反応をひき出す情緒性が含まれているからでしょう。
3. 放送は、現実認識の方法や角度、事象の関係、構造、過程などを要約した形で示すことができるので「モデル機能をもつ教材」だといわれています。
4. 放送は、電波でもって伝送される教材なので、瞬間的に消えさり、二度と繰り返されないので、このことが放送教材に対する主要な抵抗理論ですが、この一回性が進行形の教育を要求し、児童は、「見る、聞く、考える」という三つの働きを同時的に行なわなければならないこととなります。したがって迅速な判断・直感的な思考力が養われることになるといわれるのです。
5. 放送はそれぞれ、その道の権威者を教室内に招くことが可能なのです。テレビには、テレビティーチャーがおり、それぞれ専門的立場で、より効果的な教育を用いて画面に登場してまいります。したがって教育の質を高め、幅広い教育が行なわれることになるのです。

以上、放送の教材としての特性のいくつかについて記してみましたが、いずれの特性をとりあげても、印刷メディアとしての教科書教材では、考えられないものばかりであり、この意味でも、電気メディアの教室内への進入は、学習指導上画期的なものであり、教科書教材ではなし得ない教育効果を発揮するものと期待できるのです。

今日では、放送教材を学習活動に活用しておられる教師は、どこの学校でも、だれかおられますが、私のように教科書教材的に扱ったり、教科書教材の補充として利用している人もいます。しかしながら、メディアの異なる放送教材を教科書教材と同じ扱いにされたのでは、本来の効果は期待できないであらうでしょう。したがって、教科書教材とは、明らかに別の「方法」で活用されべき別個の教材といえるのではないのでしょうか。

教科書と別の「方法」で活用するということは、いったいどうすることなのだろうか。

これについては、私たち教師が、現場で、地道な実践をつづける中で考え出すべきもので、今後の研究課題であらうでしょう。教室に立つすべての教師が、個人で、あるいは研究会組織で放送教材利用上の研究を累積することは、学習効率を高め、学習の質をよくする意味で大切なことであると思います。

こうして、ラジオ・テレビを媒体とする現代的学習指導法が身についた時、私達は、未来に生きる児童を指導することのできる現代の教師になり得るのだと信じています。

私が声を大にして、「新しいメディアとしての放送を教室内の学習活動に取り入れようと訴えることは、印刷メディアとしての教科書教材を否定していることではないのです。もちろん教科書は、教育の歴史の中で大きな役割りを果たして来ましたが、これからも重要な役割りを果たさなければならないと思います。しかし、今日のように、マス・コミははんらんし、教育内容が激増する世の中では、教科書だけですべてをおおいつくすことはできないと思います。教科書も大事ですが、それ以外に、科

学・技術の発展にともなう電気メディアの放送も、教育の現代化のためにおおいに活用しなければならない時代にきていると思うからであります。教育内容は、社会の進歩とともに改善されつつあります。教育方法もまた、社会の進歩とともに改善され、現代化されるのは、教育の一層の発展のために当然のことではないでしょうか。

#### (四) 放送教育のもう一つの意義

以上で、学習効率を高めるための「放送教材の利用と教育の現代化」についての提言を終るわけですが、放送教育は、単に学習効率を高めるための方法論としてのみ生まれたわけではないということとを申し添えておきたいと思います。

放送教育における他の要請とは、映像時代における学校教育のあり方への反省として、脚光をあびたのであります。

現代の子どもは、映像に生まれ、映像とともに育っているのです。したがって、テレビが子どもの生活を変えつつあり、生活だけでなく思考の方式もある程度変えつつあるといわれるのも納得できる論であります。私たち教師ですら、かなりテレビに影響されているのです。こうして生活の中に止めどなく流れる電波は、ある時は教育的に働き、ある時はその非教育性を暴露し、それでも容赦なく、ふんだんに流れつづけるのです。したがって、子どもたちの周囲には、教育上考えなければならないいろいろな問題が生まれつつあるといえるのです。こういう認識に基づいて、従来の学校教育のあり方を反省し、マス・メディアを教育に取り入れなければならないと考えるようになって生まれたのが放送教育なのです。はん濫するマス・コミに対決し、つりゆく人間疎外を克服し、ふんだんに流れる電波を、自分の生活に積極的に、進歩的に活用できる人になるために放送教育は生まれたといえるのです。

こうした意味からも、放送教材の教室内への取り入れは意義あることなのです。

#### 終わりに

科学・技術の成果を生かした現代的な方法によって、「教育の効率と質を高め、さらには教育の可能性を広げること」を志向し、実践することこそ、教育の現代化であり、現代における教育者の理想であると思います。

このような現代的視点で、教育力豊かなテレビ・ラジオ教材が、現場に立つすべての教師に、その特性を生かして活用されるならば、わが国の教育の質は高まり、教育の可能性は広がることと思います。

さりとて、輝かしい未来は、一挙にやってくるものではないでしょう。

それは、現在からの連続であり、日々の実践を、より現代的な方向へと視点を変更していくふうと努力の累積によってなし得るものだと思います。

現代社会の要請を受け、科学・技術の成果を生かした放送教育は、輝かしい教育未来のために、明日に生きる児童のために、教育現代化の先頭に立っていくべきだと信じ、私の教育現代化論をとじたいと思います。